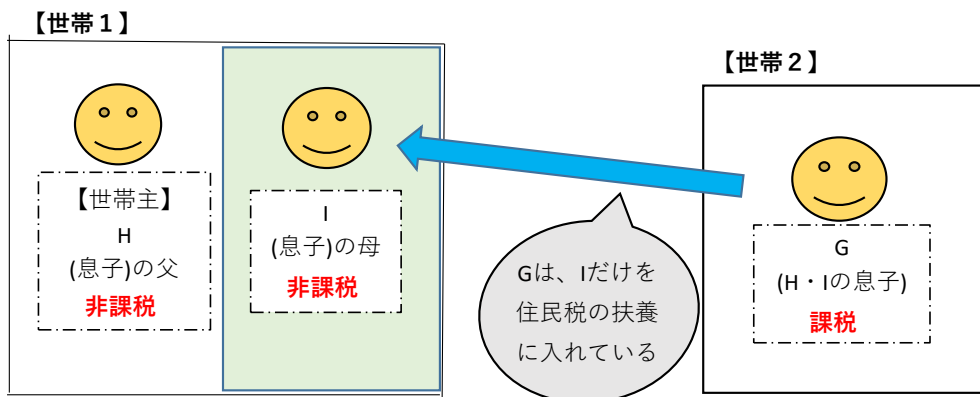


★【世帯1】が支給対象となるケース

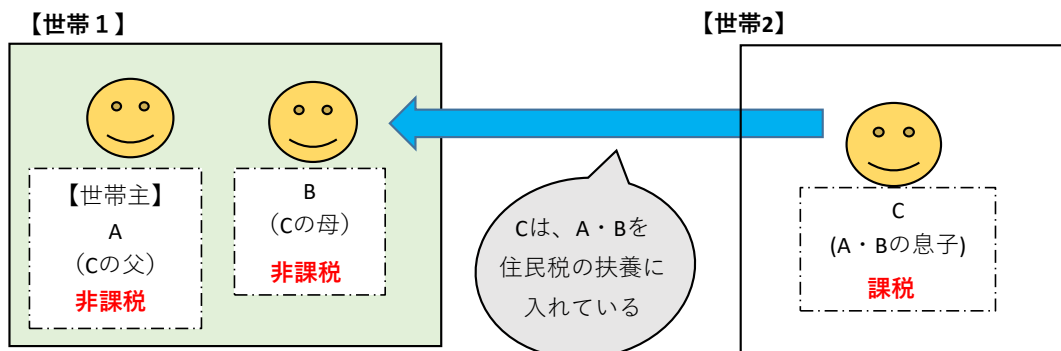
ケース1：G（課税）が、I（非課税）だけを住民税の扶養に入れている場合



⇒ケース1の場合、【世帯1】は「世帯の全員が課税者の扶養親族」には該当しないため、【世帯1】は支給対象となる。

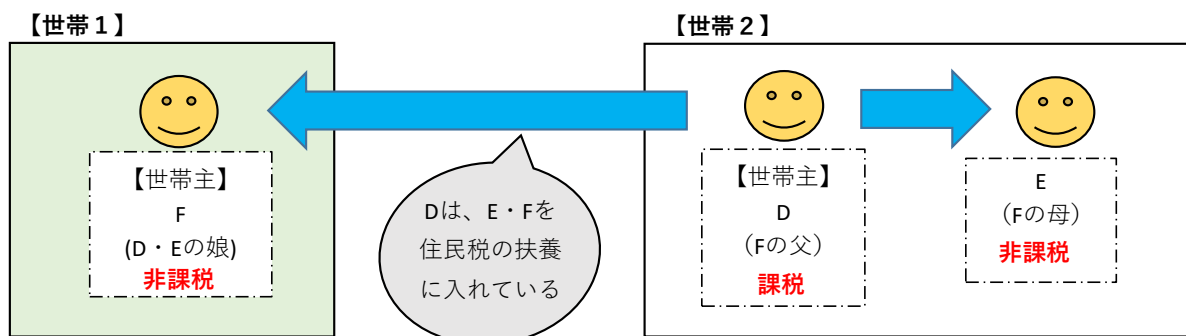
★【世帯1】が支給対象とならないケース

ケース2：C（息子・課税）が、AとB（Cの両親・非課税）を住民税の扶養に取っている場合



⇒【世帯1】は世帯全員が非課税ですが、世帯全員が課税者の扶養に取られているため、【世帯1】は支給対象外となります。

ケース3：D（課税・父）が、E（非課税・母）とF（非課税・子）を住民税の扶養に取っている場合



⇒ケース2と同様に、親（課税者）に扶養されているF（娘・非課税）は単身世帯であっても【世帯1】は対象外となります。